



# 21世紀を生き抜く考動人 〈Lifelong Active Learner〉 の育成

## “Road to Bologna”



文部科学省の平成26年度「大学教育再生加速プログラム」において、本学の取組が採択されました。この取組は、21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>育成を図るものです。

本学が目指す「考動力」あふれる人材の育成に向けて、アクティブ・ラーニングの普及をさらに加速させ、学修成果の可視化に向けた指標づくりと実践を推進するプログラムを展開します。

取組を通じて、学生が生涯に亘って創造的な思考と責任ある行動を実践し続け、グローバル社会にも通用しうる人材となるよう、努力していく所存でございます。



関西大学学長  
楠見 晴重



**文部科学省  
「大学教育再生加速プログラム」とは？**  
「大学教育再生加速プログラム」は、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援することを目的としているものです。平成26年度は、申請事業250件のうち46件が採択されました。本学が採択された事業は、「テーマⅠ：アクティブ・ラーニング」と、「テーマⅡ：学修成果の可視化」の複合型に該当するものです。



関西大学 教育推進部 教育開発支援センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号  
TEL : 06-6368-1513 FAX : 06-6368-1514  
Mail : ap-info@ml.kandai.jp Web : http://www.kansai-u.ac.jp/ap



この伝統を、超える未来を。



# 取組の位置づけと概要

本事業の目的は、生涯に亘って創造的な思考と責任ある行動を実践し続ける考動人 <Lifelong Active Learner>を育成することです。これまでは主として初年次教育においてPBL型や学生参画型の授業科目を中心にアクティブ・ラーニングの普及を推進してきました。また、キャリア教育においては、自己認識 (Self Awareness) や自己変革の機会認識 (Opportunity Awareness) など、キャリア管理能力の基礎を修得するためのコンテンツとインターンシップの機会を提供してきました。

今後、社会からの期待に応え続けていくためには、「特定の課題に取り組むチームワーク体験」「実社会とのつながりを体感できる教育」等、教育の内容と方法をさらに工夫する必要があります。また、キャリア管理能力についてはDOTSモデルに示される意思決定学習 (Decision Learning) や環境適応学習 (Transition Learning) の機会保障が必要です。

そこで本事業では、これらの教育内容・方法に求められる社会のニーズを踏まえ、以下の取組を中心に行います。第一に、初年次教育と専門教育 (ゼミ等) とを有機的に接続する拠点づくり等により、考動力の成長・確認・再生を可能にするためのプラットフォームを構築します。第二に、考動力を評価するための指標を開発し、学修行動・到達度調査等により学修成果を検証し、教育改善・学修支援に反映させます。以上の取組により、上記の目的達成を図っていきます。

取組担当者 教育推進部教授 三浦 真琴

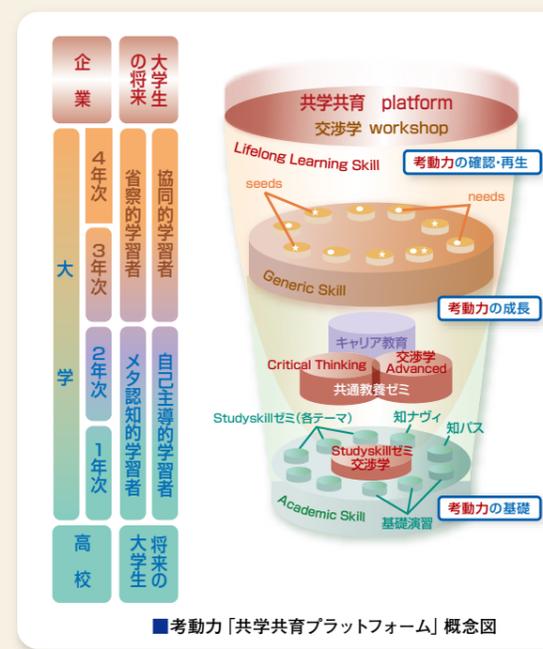


## 取組概要

### 1 Lifelong Active Learner の育成

共通教養ゼミを汎用的技能や高次思考力、批判的思考力を育成する場とするために、交渉学ならびにクリティカルシンキングを新たなテーマとして加えます。学部の専門ゼミにおいても、交渉学などに対するニーズならびにシーズは確認されています。すなわち、共通教養ゼミは初年次向けのゼミと専門ゼミとを有機的に接続する拠点となります。

また、卒業後もそのような能力を確認、再生できる場として「共学共育プラットフォーム」を作ります。このプラットフォームは学生が在籍中に参加して、卒業生や有職者と交流をする場にもなります。具体的には、交渉学ワークショップの開催などにより実現する計画となっています。



#### 交渉学とは？

「交渉学」とは、「交渉力」を論理的に実証し、研究する学問です。ここでいう「交渉力」とは、お互いの目的や意図を情報共有・共感し、当事者間の意志決定を基にして、長期にわたる良好な信頼関係を築くための力を指します。学生が、交渉学の学問知を身につけることも必要ですが、本事業ではむしろ、実践的に相手との長期にわたる「Win-Winの関係」を構築するという、交渉学で大切にしている理念を重要視しています。このような理念のもとで、当事者間で長期の信頼関係に至るためには、根拠に基づいた批判的思考力・高度なコミュニケーション力が必要となります。以上のことから、「交渉学」が考動力を育成するために相応しい学問であるといえます。本事業では、多くの学生が「交渉学」の理念や実践を通して、考動力を育成する教育プログラムを構築していきます。

### 2 考動力の成果指標開発と検証

考動力を測定、検証するために「基礎能力」「高次能力」に二分し、それぞれ4段階のコモンルーブリックを作成します。作成にあたっては、社会人基礎力や学士力といった、従来の教育的指標に加え、OECDが提唱するDeSeCoの3つのキーコンピテンシー (他者と学ぶ・道具を相互作用的に活用する・自律的に学ぶ) および、ACT21sの21世紀型スキル (批判的思考・意思決定・コラボレーション・ICTリテラシー・シチズンシップ等) という未来型指標も参照します。

コモンルーブリックを開発することで、本学の学生が、国際通用性を持ち、これからの社会をリードするために必要な考動力を有することを測定・検証します。

具体的な方法としては、学修行動・到達度を調査する間接評価と、教員の直接評価を実施します。この調査により明らかにされる学生の「学習したつもり」については、事務職員の学修コンサルジュグが、教員の「教育したつもり」については、授業コンサルティングやクラスルーブリック作成の支援を通して改善の努力をします。

